10月麻績村教育委員会定例会議 会議録

令和4年10月4日(火)
午前9時30分～
地域交流センター第3・4研修室

出席委員　職務代理　小山正文　　委員　宮下温子
委員　小松小百合　　委員　髙野羊子

出席職員　麻績保育園長　塚原京子　　麻績小学校長　佐々木英明
筑北中学校長　臼井伸明　　教育長　加瀬浩明
次長　臼井太津男　　子育て支援コーディネーター　髙野智弘
主事　龍頭詩織

一　**開会**(臼井教育次長)

定刻となりました。令和4年10月の麻績村教育委員会定例会を始めます。よろしくお願いいたします。

二　**教育長挨拶**(加瀬教育長)

9月30日　市ノ瀬委員退任、教育長前任残任期間終了
10月1日　髙野委員新任（4年間)、教育長2期目任期開始（3年間）
市ノ瀬委員退任のため、教育長職務代理として新たに小山委員選任

教育長:私の前任の残任期間の任期が9月30日で終了いたしまして、新たに10月1日より3年間ということで任命をいただきました。教育長としてまだまだ力不足で皆様にご迷惑をお掛けすることばかりでございますけれども、ここまで半年務めてきて色々なことがようやく自分自身でもわかってきたかなという感じであります。新たなことに挑戦をしながら進めていきたいと考えているところであります。よろしくお願いいたします。

髙野委員:10月1日より教育委員を務めさせていただきます。4年間皆様と一緒に、皆様の姿を見て学びながら進んでまいりたいと思います。力不足でありますけれどもお世話になります。よろしくお願いいたします。

小山職務代理:市ノ瀬委員のベテランの先生の後任として私が職務代理ということで、本当に力不足ではありますが、教育現場を知らない私が務まるかどうか大変不安ですが、加瀬教育長が大ベテランでいらっしゃいますので、皆さんと一緒にやっていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

三　報告

臼井次長:それでは、報告事項に移ります。教育長報告をお願いします。

1．教育長報告

教育長:お願いします。これで3年間ということでありますが、実際に私としては、全国的にそうではあるんですが、本当に特に麻績村はそうですが、少子化に対応した子どもたちにとって望ましい教育環境の在り方や施策をきちっと進めていかなければいけないなと思います。どう見ても、これから増えていくと言うよりは、何とか維持していってもらえればというようなところであります。各学年1クラスというような状況で、急激に人数の少ない学年が1つありますが、ほぼ10数名で推移をしています。教育環境とすれば、先生方にとっては非常にやり易い、一人ひとりに目が行き届く人数かと思いますが、一番は、私はやはりその状況であると先生方の力量の向上にはなかなか繋がらないと思っています。先生方の力がないということではなくて、先生方は常に学び続けることが必要でありますので、そのことによって教え方であったり子どもへの対応であったり、色々なことでどんどん力を付けていってもらう状況ではあるんですが、やはり1学年に複数の先生がいないと互いの良さや自分の足りないところ等がなかなか見えませんので、ここが非常に重要な部分だと思いますので、やはり一番は教職員の力量の向上を挙げていきたいなと思っています。そういった中では、当然先生方の働き方改革等も入ってまいります。要はだらだらとやるのではなくて、本当に集中してお勤めいただくようなことになるかと思います。二番目としてはやはり安心安全な学校や園、子育ての場を含めて、安心安全というのが第一かなと思います。予測できないことが次々と起こる時代でありますので、常にそういったことを頭に置きながら安心安全な学校、園、子育ての場作りが重要かなと思います。三番目は、こういった時代でありますので、学校の方ではどんどん推進をしていただいていますが、GIGAスクールに関して、ICTの活用をどんどん進めていく。これは無限に可能性が広がることでありますので、ICTの活用をさらに充実をしていきたいと思っています。そういった今挙げた3点をさらに有効に活用していくために学校間連携、これは保育園と小学校、小学校と中学校、あるいは保育園と中学校、これもありますし、近隣の学校施設、他の村等の学校施設との連携が必要。さらに、学校と地域、家庭の連携が必要であると思っています。ですので、連携ということがやはりそれを可能にしていく大きなことかなと思っています。学校教育が中心になりますが、社会教育であったり生涯学習であったり、スポーツ振興であったりというような部分に目を向けますと、今年度まで続いている第6次麻績村振興計画、今次

の第７次麻績村振興計画が考えられているところであります。村民や子どもたちにアンケート調査も実施されると思いますが、そこに向けていく中で特に教育委員会関係で言いますと、第６次振興計画の中で評価が非常に低かったもの、これは実は「生涯スポーツ」の点が非常に低い、５段階の評定で行くと３を割っているという状況です。他は全て３以上で、４が中心だったと思いますが、その中で「生涯スポーツ」、これ自体は考えてみるとやはりコロナ禍で色々な活動ができていないということが一番大きな原因かなと思いますので、社会教育の中では「生涯スポーツ」のところちょっと遅れていた部分を何とか取り戻していきたい、喫緊の課題かなと思っているところであります。これから評価をしていく中で委員の皆様方からもご意見を頂戴して次の５年間、10年間に目を向けて進めていかれる教育委員会であれば良いなと思っています。本日の資料の中に、令和４年度の長野県教育委員会と市町村連絡協議会等の懇談会が７月13日に行われましたが、その全ての資料が入っています。時間のある時に見ていただいて、「県全体としてはこんなことを考えているんだな」とご承知いただけるとありがたいと思います。なかなか色々なことがここまでコロナ禍でできないという状況でありましたが、これからは「できない」ということで終わるのではなくて「どうやったらできるかな」ということを常に考えて、なるべく色々なことは実施していくという方向で教育委員会を進めていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします(以下、資料に沿って説明)。

臼井次長:ありがとうございました。只今の教育長報告についてご意見等ございましたらお願いします。よろしいでしょうか。それでは、続いて子育て支援コーディネーターお願いいたします。

2．学校長・保育園長報告

1）子育て支援コーディネーター報告(髙野ＣＯ)

髙野ＣＯ:よろしくお願いいたします(以下、資料に沿って説明)。

臼井次長:只今の子育て支援コーディネーター報告についてご意見等ございましたらお願いします。

小松委員:先程親子の様子の中に出てきた「りんごほっぺ」や「わくわく自然村」の育児サークルとの連携と言うかそういうところで、私も「わくわく自然村」の活動に一緒にお手伝いさせていただいているんですが、交流があると良いなと前々から感じておりまして、垣根無く地域の活動と上手く連携取っていくとかなり活動自体が広がったり、お互いに良いことがすごくあるんじゃないかと思います。「わくわく自然村」の方もかなりダイナミックな

活動をしていまして、先日の高城址の方にきのこ取りに出かけまして、大人も未就園児の小さい子も十分登れる、急斜面だったんですけど、結構登って良い活動だったなと思いました。例えば保育園や、場合によっては小学校と連携図りながら活動が広がっていくと良いなと感じています。児童クラブやひだまり広場もそうですが、そちらも上手く連携が図れると良いなと思うんですが、場所は１つのところを拠点に活動できれば良いんですが、そうでなくても連携は今からでも取ることができると思います。特に放課後児童クラブの方は、視察に行ってみたいと思っていながら行けていないんですが、やはりあそこの空間はすごく大事で、学校でもなく家庭でもない、子どもたちが本当に自己を開放できる場所と言うか、そこの様子もすごく知りたいし、子どもたちにとっては大事な場所であると思いますので、そこも上手く連携が図れて満遍なく子どもたちの姿を拾っていければ良いなと感じています。

髙野ＣＯ:ありがとうございます。確かに「わくわく自然村」についても、代表の和栗さんがこちらに来られて、「ゆくゆくはおみっこ元気クラブとも共催できたら良いな」というような相談は貰っていますので、前向きに考えていければ良いかなと思っております。村の施策として、今 0～18 歳まで包括的に見るというところで、中学校卒業以降の高校生とかも集えるような居場所があると良いのかなというところで考えていきたいと思っております。

小松委員:ありがとうございます。

臼井次長:他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは続いて保育園長報告に移ります。保育園長お願いいたします。

2）**保育園長報告**（塚原園長先生）

塚原園長:よろしくお願いいたします（以下、資料に沿って説明）。

臼井次長:只今の保育園長報告についてご意見等ございましたらお願いします。

教　育　長:ペアレント・トレーニングのところですが、「褒める」って要は。

塚原園長:「幼少期、保育園の 3～5 歳は褒めるだけで良いです」と言われて、でも「褒める」って言われてもなかなかどういう風に褒めたら良いか、要はお母さんたち「困り感があるのにどう褒めたら良いか」というのって漠然としてわからないと思うんですが、「実際にこういう行動をするんです」とお母さん方宿題も出されるんです。「褒める技術」ってこういう風にするんだなというのが、漠然に何やっても褒めるのではなく、例えばスーパーで買い物する時にばーっと走っちゃったりとかするじゃないですか、よく見る光景なんですけど、子どもの行動ってわかるからお買い物行く前に「スーパーに行ったら走らないでね」と子どもに告知をしておくそうです。入る前にも「今日は走らないよ」と伝え、入っても走らなければその時に「よ

く走らないで今日はお母さんと一緒に歩けたね」と褒める。この時が褒めなくちゃいけないタイミングです。こういう機会を増やしていくと、子どもは「こういう風にやると褒めてもらえるんだ」と思って、困った行動が減ってくる、と話してから取り組んだお母さんがいたんですね。そうしたら3回目に「本当になくなった」とか仰っていました。ペアレント・トレーニングをグループでやる利点というのは、「自分だけじゃない」ということがわかることと、ペアになってやるので、本当は6人いれば良かったんですが、1人の方が申し込んでいたんですがご家庭の事情で来られなくなってしまったのですが、二人組で話をしたり「褒める技術」を身につけるための練習をお互いにしあったりできることです。臨床発達心理士の小林ひろみ先生は松本市や安曇野市等色々なところでやられているんですが、ほぼ全員のお母さん方が「子どもの変化がありました」「見方が変わりました」と言っているので、お母さん方にもすごく自信を持たせてくれています。先生は絶対に否定しません。やっぱり人は褒められると、大人もそうなんですが、良いと思いました。褒める子育ては保育士にも応用できるのがわかりました。

教　育　長:基本的には私は職員にやってもらいたいんです。

塚原園長:職員向けのコースがあるということなので、来年は職員を対象にやりたいと思います。

教　育　長:基本的には同じことです。要は教員をやっていて、年を取ってくると怒っちゃうんです。でも怒るのと叱るのは違うんです。怒っちゃダメなんです、叱らないと。「ここはダメだ」とか危険がある時とかは叱る。でもやはり感情で怒っちゃう。だから先生たちには「褒める」ということをうんと学んでもらいたい。要は家の方だけでやっていくと、保育園に来るとずっと怒られているなんてことが起きると保育園嫌になっちゃうから。

塚原園長:今は幼児版をやっているんですが、小学校版というのもあるらしく、今受講しているお母さん方が「ぜひ小学校版もやりたいです」と言うくらい本当に良いです。知らないでいるのと知ってやっているのとでは全然子育てが楽になるなと改めて感じました。

教　育　長:一貫教育の具体的な取組みだと思います。「褒める」教育という部分が保育園だけということではなくて。先程お話しいただいた中学生が来る行事とかは実際に一貫教育の具体的な取組みなので、こういうことを発信したいんです。

臼井校長:中学校は市民タイムス来ます。運動会も呼びました。

教　育　長:そういう形でぜひどんどんやってもらいたいと思います。この前小学生が中学校の文化祭（運動会）に来ていたけど、良いなと思いましたけど、そういうのをやはりどんどん発信する形かなと思います。運動遊びの方は、運動保育士が子どもたちを遊ばせてくれるんですか。要は先生たちがその

保育士から学んでいるんですか。

塚原園長:学んでいるんです。

教　育　長:それが大事です。

塚原園長:子どもの盛り上げ方とかすごく上手なので、やっぱりそれもよく考えたら「褒める」なんですよね。

教　育　長:そういうときもぜひ市民タイムスを呼んでください。

塚原園長:はい。運動遊びは何年も取り組んできていたので、改めて呼んでみたいと思います。

教　育　長:ぜひ発信を、「こういうことをやっているよ」というのを、やはり報道が一番効果があるのでぜひやっていただきたいなと思います。ありがとうございます。

臼井次長:他いかがでしょうか。

臼井校長:今の「褒める」という点の、「大人の子どもに対する見方」と言われましたが、子どもたちは何をやっていても褒められる要素はたくさんあるんだけど、自分たちが教員をやっていると基準が上がってきちゃって、今子供たちに求められているものがパーフェクト、100 点でないと褒められないとか、例えば中学校で言えばテストの点数でしか、見えるものでないと評価ができないという現状があります。ちょうど今日朝教頭と打ち合わせしてきて、「うちの先生たちどうかな」と話をして自分が思ったところは、見えないところを評価する力を、教育長さんが仰ったように、教職員もお家の方も一緒になって身に付けて伸ばして、子どもたちの良さを認めて、小さい頃から「ここを伸ばして行けば良いぞ」と伝えていけば、がんがん表現する子たちは出てくるのではないかなと思います。先生たちもそうだし、先生たちが保護者に伝えることが「こんな感じで良いんだな」と理解してもらえると思います。自分は 50 点で良いと思うんです、50％良いことがあれば 100 点でなくても。10 点でも良いと思うんです、10％良い点があれば良いと思います。そのところを褒めていけばもしかしたら 10％が 50％になるかもしれないし、そういうことは常日頃から思っています。

塚原園長:送り迎えの時に、「こんな姿がありましたよ」とお母さんに言うと「そうなんですね、家ではそんな風にしないのに」とか仰います。要は「友達の靴を揃えてあげた」とか何か良い姿をできるだけ伝えるようにすると、子どもたち「またやってみよう」となるのかなと思っています。どうしても困った行動に目が行きがちなんだけど、そういった視点はちょっと変えないといけないのかなと思います。

臼井校長:よく職員が「心配だ」と言うんですよ、でも心配なことは 1 つもないと思っていて、「心配だ」と言っていれば子どもたちも心配になっちゃうから皆心配になっちゃうことがあります。そんな心配なことなんていっぱいあるから、「大丈夫だよ」と言ってあげれば子どもたちも安心して、親も安

心していくのではないかと思います。根拠のない「大丈夫だ」はいけないと思うんですけどね。

塚原園長:そうやって言ってもらえることって安心できますよね。

臼井校長:保護者に伝えることが大事かなと思います。

小松委員:今の「大丈夫」ということに関してですが、やっぱり褒められ体験で伸びていくのは自分の子育てやってみて本当にその通りだなと思うし、ただそれと同時に結果を自分で追うようになってしまって、結果ありきではなくて、良い結果が出ていてもいなくても、「頑張ったところがとても良かったね」と言うのが良いと思います。褒めていくと段々結果出さないとダメじゃないかみたいになるかもしれませんが、「結果じゃなくて過程が大事だよ」ということを伝えると良いと思います。私も子育てしていく中で褒めて育てようと思ったんですけど、褒めるところがないなと思った時期があって、その時は困って「大好きだよ」というメッセージいっぱい伝えました。そうすると自分に自信が段々出てきて、具体的に褒められるところが見つかってきました。「どんなことでも、すごいことができてもできなくても、失敗しても何でも、とにかく私はあなたのことが大好きだよ」「そのままで、ありのままで良いんだよ」というところも同時に捉えておかないと、結果だけを見て褒めて、それに対して努力して、それができなかった時にその子はどうするのかというところも一緒に考えていかなければならないと感じました。

臼井次長:他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは続いて小学校長報告に移ります。小学校長お願いいたします。

3）小学校長報告（佐々木校長先生）

佐々木校長:よろしくお願いいたします（以下、資料に沿って説明）。

臼井次長:只今の小学校長報告についてご意見等ございましたらお願いします。

教　育　長:保小中の連携、保育園、中学校も含めて本当によくやっていただいて、ありがとうございます。実際にこういったことが本当に力になっていくかなと思いますので今後も継続してもらいたいのと、ここのところ開催していない園長校長会も、コロナウイルス感染症も一気に広がっていましたがちょっと落ち着いてきたから、ぜひまた計画をしていただいて、さらに連携できるとありがたいなと思っています。担任を交代させるというのは良いね、小中で１回そういうことはできないか。中学校の先生が小学校を体験してみる、小学校の先生が中学校を体験してみる。

臼井校長:システム違うから大変かもしれない。自分は中学校の教員が保育園に行って、言葉が通じない子に対してずっと後ろ付いたりとか、どういう動きするか見たりするとかという、そういうような言葉では通じない体験をして

もらった方が良いかなと思います。小中の交換はやろうと思えばできるか、校長は交換できると思います。担任代わるより校長代わるか。

佐々木校長:みんな知っているから全然平気だけどね。

臼井校長:部屋だけ用意してもらえれば、校長室の机で仕事していれば良いと思います。

教　育　長:面白いと思います。先生たちにとって良い経験になると思います。中学の先生が保育園にという話でしたが、保育園の先生も本当に大変ですもんね。

塚原園長:それは当たり前でやっていることなんですけど、そうですね。

教　育　長:すごいと思います、いつも。

佐々木校長:前に伊那に居た時は、保小連携の中で、学区の保育園の保育士さんと学校の職員が在任中に必ず 1 回は 1 日体験にそれぞれ送るという話があって、1 回は 3 年間の中で経験をしている。1 日生活してみるということをやって、こんなことを保育園でやっているのかとやっぱり知らないことがあります。

教　育　長:先生たちがそこのところを理解することで、自分の現状の教え方だとか、勝手に思い込んでいたことだとかが見えるとやっぱり全然違うので。

佐々木校長:とてもプラスになると思います。今回「けやきの日」の狙いとしては、保小の先生方がもっと知りあってフレンドリーになっていけるというか、そういうところで同じ目線で子どもたちにあたれるということを狙ってはいます。良い試みかなと思います。

教　育　長:本当に一貫教育の具体的な取り組みなので、市民タイムだけに限らず、何らかの形でこういうことをやっていると発信したいなと思っています。それは宿題としていただいてお願いします。

佐々木校長:もう 1 つ、先程加瀬先生が仰った他校との連携のところで、9 月 22 日に北部 3 校、小学校の学年会を ZOOM でやりました。全部単級ですので、担任 3 人が ZOOM で入って、授業の進度や行事の話とかをしました。1 つは ZOOM を使いながら、今言われているクラウドでの共同編集機能を使って、必要なことを書きこんでお互いに同時編集をしていくことをやって、他校との連携がスタートしました。

教　育　長:年度当初に大きなことを言ってしまったので、具体的に実施していただいてありがとうございます。

佐々木校長:本校は理解できているんです。ところが他校のそれぞれの先生方の思いは色々あるので、「こんなことをやるのか」と校長室に文句を言いに行ってしまう先生とかも結構いました。学年によって「とても良い会になりました」というところもあれば、「二度とやりたくない」と言われたところもあります。何度か実施して回を重ねながらやることの良さ、各校で担任が孤立するのではなくて、同じ学年の子供たちの発達段階に合わせた話ができるのは同じ学年の担任だという、ここを大事に捉えて「良いね」と、こ

れから月１回を予定しているんですが、最後そんな風に言ってもらえるように取り組んで試してみたいと思っています。

教　育　長:１人で自分の学年とかクラスとか見て、他の比較対象が入っていないと「これで良い」と思いこんじゃっているから、逆にそういうものが入ってくると「やっているんだから良いんだよ」となっちゃうという先生こそ本当に知ってもらいたいと思います。

佐々木校長:本校は本当にベテランばかりですけど、とても前向きだなと思います。

教　育　長:北部でそういう話ができないかな。

臼井校長:校長は生坂も聖南も筑北も皆当然情報共有ができているんですけど、校長会の中で「教頭はどれだけ繋がっているか」という話になって、一番職員室に居る教頭先生方が、電話では色々提出物の確認とかではぼちぼちは繋がっていると思うんですけど、先生たちと一番繋がっている教頭先生たちを繋げなきゃいけないというところで、年間計画を立てるところとかも含めて北部の教頭会みたいな感じで、定例で情報共有するような会をやりましょうという流れになっているので、より繋がってくると思います。校長が言ってもトップダウン型になってしまうので、教頭先生が入ってもらって担任に伝えてもらえたら良いかなと、そこの流れを考えています。

教　育　長:ありがとうございます。

臼井次長:他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは続いて中学校長報告に移ります。中学校長お願いいたします。

4）中学校長報告（臼井校長先生）

臼井校長:よろしくお願いいたします（以下、資料に沿って説明）。

臼井次長:只今の中学校長報告についてご意見等ございましたらお願いします。

髙野委員:先程校長先生の方から経験の場ということで、子供たちの意見が形になる機会をぜひと言われて、「なるほど、ありがたいな」と思ったんですが、その実現に近付くために、例えば小学校は「子供議会」がありますよね、これが中学の域になるとぐっと深みのある議会になるんじゃないかなと思うので、例えば３年生なら３月議会は厳しいので６月議会とか、もしくは２年生なら良い月に行うとか、発表、提言の場としてそういう機会を作っていただくと、子供たちはより自信を持って発表できるのではないかと思います。文化祭でとても皆さん良い意見出しているので、その機会を作っていただければと思います。

臼井校長:提言みたいな形で、村のほうにはある程度は言っているんですけれども、髙野さんが仰られたように、議会とかで言えるような場があれば更に伝わるかなと思いますので、時期的なこともありますが。小学校議会はあるんですよね。

髙野委員:小学校議会で提言したことで実際に実現していることもあるので、バス停を作っていただきました。その時のタイミングで議会でも進めやすい議題というのがたぶんあると思うんですよね、そうすると実現しやすいかなと思います。ただ提案ということよりは実際にそこで発表するというのが大事かなと思うので、ぜひお願いします。

臼井校長:去年も臼井次長さんと話をしたところで、小学校で経験しているけど中学校ではないのが､授業の流れとかでそういうのがあったりするんですけど、どこかで実現できるようにやりたいと思います。

髙野委員:例えば「子供議会」で午前中は小学生がやります。設定しにくいかもしれ線が、午後は中学生。必ず実現する訳ではないですが、「あ、良いね」と言って議員、行政の皆さんが進めてくれる可能性はかなりあるのかなと思います。

臼井次長:他いかがでしょうか。

教　育　長:保小中とも避難訓練を入れてくれてあって、それぞれ対応をやってくれているので良いんですが、地震への対応というのが今一番大変だと思います。まずは自分自身の身を守ること、避難経路をちゃんと確保すること、特に建物の外に出る時に注意が必要です。保育園の場合は、通常生活は裸足ですか。

塚原園長:もう今は運動靴です。履いています。一応、裸足の時もすぐに運動靴を履けるように、ロッカーの上に置いてあります。

教　育　長:そこら辺の基本的なところを先生方にもう一度ちょっと確認をしておいていただくことはお願いしたいと思います。身を守る、避難経路をちゃんと確保する、あとは火の始末かな、すみませんがよろしくお願いします。

小松委員:今朝Ｊアラートじゃないけど、北朝鮮のことで大騒ぎしていましたけれども、実際にＪアラートが鳴ったら子供たちはすぐ対応できるんですか。

臼井校長:あの時間だったら、今日午前 7 時 20 分くらいだったよね、そうだったら子供たちのところには行かなくて、登校途中で、今回は対応はしていなかったです。

佐々木校長:北海道と青森だけだったから、Ｊアラート出ている地域自体が。

教　育　長:もし長野、特に麻績村が地域に指定されて入った場合には、村から何か出るんですか。

小松委員:Ｊアラート鳴るんですよね、防災無線とか。

臼井次長:知らせるということが一番なので。

臼井校長:防災無線が鳴るんですね。通学途中だよね、たぶんそこら辺は。

教　育　長:それに従ってくださいという感じですかね。

佐々木校長:緊急地震速報もそうなんですが、学校の放送には入らないから、この村の設備の中にはないんです。だから、外から聞こえるものしかないと思います。

小松委員:もしかしたらそういう想定も考えておかないといけないですね。

臼井校長:村の危機管理マニュアルみたいなものはないんですか。

臼井次長:あるんですけど、実際発生した時、特に今回みたいなものについては基本的にやりようがないという感じになってしまいます。

髙野委員:時間帯によっては子供たちが自分で判断しなければならないことになるので、放送で例えば「生徒の皆さんは近くの寄れる家に行くように」と流すとかどうでしょうか。

佐々木校長:どこに落ちるか分からないから。

小松委員:今日もニュースでは、対象地域の人は近くの建物に避難するとか、建物がない時は何か物陰に隠れるとか、というようなことをアナウンサーは一生懸命言っていました。

教　育　長:実際に青森の場所が出ていたけど「通常と変わりません」みたいな感じでした。

臼井校長:今日携帯が鳴ったりはしていないから、そうするとテレビをつけていないと、職員室もそのまま何事もないという感じで過ごしていると思います。自分はまだ家にいたから「Ｊアラートか」と思って来たけど、たぶん教頭先生とかは学校に行っても知らないんじゃないかと思います。

教　育　長:青森はＪアラートが出ていたけど学校に来ていたのかな。

小松委員:Ｊアラートが出ていたはずなので、ニュース番組は全部そういう内容でした。

佐々木校長:知らなかったです。通勤途中にラジオやテレビを聞きながら来た先生たちが「今、Ｊアラート出たからテレビつけて見て」と言うので、それでつけたら「青森と北海道か」とわかった感じでした。

臼井校長:防災無線は「地震があります」とかお知らせするんでしたか。なければ、子供たちは携帯電話を持っていなければ全然地震が来ているとかそんなことは知らないから、そのまま揺れているところを「揺れているな」と思って行くだけかと思います。

臼井次長:Ｊアラートはここら辺が該当になればＪアラートだけは鳴ります。

臼井校長:地震の場合もそうなんですか。

臼井次長:地震はないかもしれません。

臼井校長:地震は、自分達が携帯電話を持っていればわかるけど。

教　育　長:確認します。

佐々木校長:Ｊアラートとか時々訓練あるじゃないですか。あれは防災無線なったことないですよね。

宮下委員:鳴っています、電源切っていても鳴ると思います。

佐々木校長:外でも鳴りますか。

宮下委員:外でも鳴っています。

臼井校長:外の防災無線が、もわんとして聞こえにくいです。中町で陳情を出したん

ですが「そこのところは調査します」みたいな話で終わったけど、子どもたちとかそういうところに届くようなスピーカーシステムというか何か改善していただければと思います。家に居れば届くんですが、畑に居ると聞こえません。

教 育 長:わかりました。確認します。

臼井次長:他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、協議事項に移ります。

四　報告・協議事項（加瀬教育長）

(1)　一貫教育カリキュラム作成部会の設置について

教 育 長:それではお願いいたします。先程お話した通り、一貫教育に関わって今いくつも出てきましたが、実際にまとまっていなくてわかりにくいということがあるので、具体的に「カリキュラム」というほどのものではないけれど、「このようなことをやっている」ということをまとめておく必要があるかなということで、部会というほどのものではないかもしれませんが、「一貫教育カリキュラム作成部会」を設置して、それぞれ保育園としてはこうだ、小学校としてはこうだ、あるいは中学校としてはこうだということがわかるような形で進めたいと思っています。そこのところは情報の発信であったりということになるかとは思いますが、0 歳から 18 歳までということで一貫して継続的にと言っていますので、子育ての部分は髙野が中心になると思うんですけど、委員と言う形で出したいと考えています。保育園、小学校、中学校の方で、誰かそんなところに関わって一緒に作業していただいたり、それぞれの取組をまとめていただいたりする方を考えていただいて、また次長の方に報告をしていただければと思います。1 回集まりをして、連携が上手く行くような形にしたいと思いますので、人選をお願いしたいということであります。そのことに関して何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。そこのところでそれぞれの取組等を上手く繋げていけるようなものであったり、それぞれがこういうことをやっているということがわかるようなものにしたいと思っています。よろしくお願いします。それでは、次に移ります。

(2)　部活動の地域移行について

・作業部会にて検討開始（小学生も含めての見通し）

教 育 長:作業部会が動き始めているんですが、ようやくお金も使える状況に来たんですが、何せもう残り半年しか準備段階がないので、そのことを含めて、

現所の部分のところを事務局からお願いします。

臼井次長:ご説明いたします。

・資料「令和５年度から中体連大会への参加範囲が広がります！」

今まで：中学校

令和５年度から：地域のスポーツクラブ、「拠点校部活動」によるチーム

→　部活動の地域移行へ向けての制度改革

9 月 14 日　作業部会（中学校教頭、教務主任、教育次長打ち合わせ実施）

→　スケジュールの計画、組織作りを検討

地域部活動移行、新聞が先行している

麻績村は補助金をもらっているため少し進んでいるが、そうではない他自治体はどうするのか

2025 年度を目安に休日の部活動地域移行ということでスタートしているため、全体の部活動地域移行はまだいかない

新聞が先行しているため、実際保護者の方がどういう風に思っているか

→　11 月 4 日　ＰＴＡ評議委員会・参観日に説明予定

2 月　　新入生の保護者に対する説明会予定

（小学校も含めた中で説明予定）

今回のねらい：土日・休日の部活動地域移行

→　今後、中学校から平日休日問わず全て地域移行

現在、社会体育として行われているバスケットボール等できる部分は全てそういう形で進めていく予定

「麻績モデル」となればと思っている

10 月終わりか 11 月初め　郡の教育委員連絡会（教育長・次長）

地域移行について議題にし、考えたい

コロナ禍でここ 2 年間郡としての教育委員会としての交流ができていない郡として話し合いたい

予算消化、社会体育の指導者の謝礼等含め、郡の教育委員会やミニシンポジウム等で講師を呼んで地域として考えていきたいというところも検討していきたい

教　育　長:ありがとうございます。今準備会議で色々考え始めているところですが、いずれにしても「これから先こういう方向になっていくよ」ということを保護者に説明しなければいけないだろうということで、中学校は 11 月の参観日あたりところで説明ができる形を整えようとしています。小学校は 2 月の説明会等のところで「これからこういう風に変わっていくんだよ」ということが説明できる方向で準備をしているのですが、今教育委員会と中学校だけで話をしているので、小学校から誰か出ていただいて、例えば「小学生でこんなことやっている子がいる」とかいうとうな情報が欲しいということがあって、検討しておいていただけると、作業部会に顔を出し

ていただいてということになると思うんですが、お願いします。

佐々木校長:わかりました。あてます。1 つ引っ掛かっているのは、金管、あれは課外の活動にしていますが、全入でやっているので、一昔前のままずっと来ています。

教　育　長:実際には今こっちに予算がついているものに関しては運動系のことなんですよ、文化系はまだ方針が最終から出ていなくて、文科のスポーツ庁と、文化系の方は文化庁かな、なので所管が違うのでまだ出てきていないんです。なので動けないんですが、こちらとしては、実際中学校の吹奏楽辺りは他校と一緒にやっているので、そこも含めて考えていきたいとしていますので、それも検討に入れています。

佐々木校長:恐らく筑北小は課内でやっていたんだけど、希望者だけの募集制にしたんですよね。うちはそこのところは曖昧な昔のまま何の問題意識もなくやってきているんだけど、自分の中ではとても引っ掛かりがあります。

教　育　長:そこら辺も含めてちょっと検討の議題に上げたいと思うので、1 名どなたか、また次長に連絡していただければ、相談の時に 1 回来ていただくような形でお願いします。

佐々木校長:わかりました。実際には小学生が外部へ習い事に行っていることの把握をしておくということですか。

教　育　長:それがわかるとありがたいです。

佐々木校長:実際、バレーボールに行っているけどどこに行っているんだろうとか、意外と色々な競技をやっているなということがあるので、確認をして一覧にしたいと思います。

教　育　長:よろしくお願いします。そんな形で地域移行に向けて作業部会で検討開始しているということをご承知いただいて、また気が付くことがあったり、これはどうなっているんだということがあったり、委員の皆様方のお耳に入ってくるようなことがあれば、次長に伝えていただければと思っています。よろしくお願いします。それでは、次に移ります。

(3)　教育委員視察研修について

・筑北村教育委員会との懇談申し入れ

教　育　長:教育委員視察研修について、最終確認をしてこれで動きたいと思います。具体的には、日程を決めてある程度回るところに連絡を取りながら施設を 1 回見るということで、先程も話が出ていましたが、子育て関連のところも見た方が良いかなと思いましたので、そこのところも含めて計画を立てたいと思います。実際には計画をして、11 月初めくらいまでには行きたいと思っています。予定があると思いますので、また次長から具体的に日程を申し上げて調整をしたいと思います。その上で皆さんに連絡をしたいと

思いますが、もし現時点で10月の終わりから11月の初めにかけて都合の悪い日がわかっておられる委員さんいらっしゃれば、あるいは保育園、学校の方でも都合の悪い日があれば伝えておいていただいて、我々自身が実際状況をきちっと見た上で色々議論をしていかなければいけないだろうなと思いますので、よろしくお願いします。このことに関して何かご意見等あればお願いします。

小山職務代理:筑北村と一緒にということですか。

教　育　長:基本的には最初我々で見て、「筑北村の施設を見せてもらえませんか」といお願いをして、そういう状況を見て我々としての意見を持った上で筑北村と懇談をすることが、その後の方が良いのかなと思います。実際には、現状ではそれぞれがちょうど良い人数でやっているかなと自分としては思ってはいるんですが、それぞれ 15、6 人で、最初にも話しました通り、それぞれが単級で1人の先生でやっているので、学年会を違う学校と一緒にやったとかというようなことに関しては、そこら辺のところが非常に有効になるんだろうなと思いますので、現状は良い感じだと思ってはいるんですけど、何かどんなところでも結構ですがそこら辺のところありましたらお願いします。

佐々木校長:小学校の学年会をやっていく中でやっぱり、雰囲気として規模的にはうちは生坂の方が近いではないですか、生坂の先生方が抱いている「人数が少ないので、こんなことができると良いですね」という感覚は割と共感を持ってやれるんですけど、筑北小は今 30 人くらいのところもあるので、人数が多くて 20 人以上となってくると、「うちはわざわざ一緒にやる必要はない」というこの雰囲気の違いが、筑北の方が「うちはまだ一緒に交流やる必要は感じないよ」みたいなのがこの間の1回目の様子、雰囲気かなと思っています。

小山職務代理:ちょっと穿った見方をすると、学校の先生方のご意見ももちろんそうなんでしょうけど、行政としての方針もあるのかなと考えてみちゃったりもするんですが、筑北村は前村長の頃から「筑北は独自で行く」という教育路線でやっていますから。

佐々木校長:20 人いるとまあちょうど良いなというのが正直言って我々担任側のやり易さの中ではあるので、「あえてそれ以上プラスになる必要はない」というのはあるなとは感じました。

教　育　長:わかりました。保育園は、今小さい子がどんどん増えているので、非常に苦しい状況でしょうか。筑北村はどうでしょうか。

塚原園長:筑北村は今2園あって、坂井保育園はもう単独でできない状況です。年長児が1名しかいなくて、その1名を毎日ひまわり保育園に連れていってやっています。年小、年中だけでも10名に満たない人数で、未満児もやっぱり少ないです。コロナ禍の前は年長児が3園で交流していたので、コロナ

が落ち着いてきたら交流ができると思いますし、小学校の「うちはまだ一緒に交流やる必要は感じないよ」みたいな雰囲気は保育園同士はないです。今も研究保育は、今度生坂が加わって、筑北村の坂井保育園、ひまわり保育園、生坂村の生坂保育園と麻績保育園の4園で年1回、年齢はそれぞれ違うんですが、そういった研究会を行っていて、たぶんこっちから切り出せば「良いですよ」と言ってもらえる雰囲気にはなると思います。人数的にも、麻績保育園と筑北村のひまわり保育園は大体同じ人数で、生坂も多少少ないですが同じくらいなので、ただ生坂と言うと遠いので、行く手段が厳しいかなというところはあります。

教 育 長:ありがとうございます。わかりました。いずれにしても、これで我々実際に現場を見て、また思うところが出ると思いますのでお願いします。併せて先程も申し上げました通り、子育て関連の施設、「わくわく自然村」等の利用も含めて見ておくことが必要かなと思いますので、計画をさせていただきますので、よろしくお願いします。この件に関して何かございますか。よろしいでしょうか。ありがとうございました。それではその他に移ります。

五　その他

1）各委員から

教 育 長:その他何か委員の皆様からもし議題があればお出しいただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。それでは各委員の皆様から一言ずつお話をしていただければと思います。では宮下委員からお願いいたします。

宮下委員:ありがとうございました。9月の様子、保育園から中学校まで見させていただいて、乳幼児期、ひだまり広場の時代から中学校の生徒の時代まで、それぞれの子どもに対応できるというような体制にすごく近付いているなというところで、保護者はすごく安心しているのではないかと感じます。保育園は特に親と子のコミュニケーションがすごく大切な時期ということもあって、とても為になる活動をやられているということで、保護者の相談しやすい環境なんだなと感じました。相談というと、小学校、中学校というとなかなか難しくなってくる問題なのかなと思うので、その辺は担任の先生等と連絡を取りあってというようになってはいると思うんですけど、密にしていただきたいかなと思います。小学校の子どもたちの様子ですが、「けやきの日」や担任の交代、縦割り清掃等、ちょっとした変化が子どもたちは本当に楽しみなんだなというのと、活動のやる気に繋がっているんだなと日々見て実感しています。そういう場所でのコミュニケーション力とか、イレギュラーなことでも対応できる力に繋がっていてすごく良いな

と思うので、また10月も色々な行事もあると思うんですけど、そういう日常の中にも、紙の上の勉強だけじゃなくてそういう部分もすごく大事な日々の活動になってくるのかなと感じます。よろしくお願いいたします。

教　育　長:ありがとうございます。髙野委員お願いいたします。

髙野委員:今日初めて出席させていただいて、私には3人息子がおりまして、20歳と17歳と、今度15歳になりまして、末っ子は高校受験を控えております。こんなに大きくなったんだなと思いつつ、保小中一貫がこんなに進んでいるんだととても私は感激しております。「これをやっているよ」ということではなくて、これだけ浸透して小中で協力しながら活動をこんなに密にしている、このコロナ禍の中でこれだけやっているんだと思ったら、本当にすごい皆さんのエネルギーをいただいているんだなと、本当に感謝しています。まだいっぱい話すと2、3時間になってしまうんですけど、今中学校の子がいまして、本当にこの子も手を焼く子でして、1年前に病気を発病しまして、暮れに2か月くらい入院したんですが、この時面会謝絶状態だったんですが、「勉強遅れる」と思いながら学校の先生にご相談させていただいたら、「ZOOMで大丈夫だよ」と言ってくださいました。でも、病院がどう言うかということで、機材を持ち込むことに関して1回断られたんですよね。そうしてら担当医がとても優秀な方で「良いよ」と言ってくださったので、実際に勉強を始めて難なく勉強させてもらって、先生も安心してほっといてもらったというか、自分からできるところで点滴打ちながら、治療を受けながら勉強させてもらって、本当にありがたかったです。これだけ本人の意欲も断ち切らずにここまで来られて、成長させてもらったと、本当に感謝しております。これが麻績村なんだと思ったら、他の子どもたちも安心して育っていけるのではないかと思っております。ありがとうございます。またよろしくお願いいたします。

教　育　長:ありがとうございます。小山職務代理お願いいたします。

小山職務代理:教育長報告の中の、県教委からの伝達の中で、「家庭との連絡は学校の固定電話が基本」とあるんですが、これはある程度徹底しているんですか。というのは、麻績であるかどうかはわかりませんが、少し前にモンスターペアレントというような言葉が流行ったりして、先生の携帯電話へ夜電話が入るとか、休日だとか、そんなような話もあったりしたんですが、私個人的には仕事で自分の携帯電話を使うのは大嫌いだったんですけど、先生の精神的な安定も含めて、できるだけ先生個人の携帯電話は仕事には使わないという方向でお願いしたいと思います。

教　育　長:ありがとうございます。校長会の方でも結構出ていますよね。

臼井校長:話しています。

佐々木校長:知らせないということを徹底しています。

教　育　長:はい、お願いします。小松委員お願いいたします。

小松委員:私先程の発言で「褒める」のところの発言で反省しているんですが、両輪でとは言ったんですが、やはり基本褒めることは大事だなということと、きっと「褒める」ことも発達段階に応じて褒め方とか色々違ってくるのかなと感じました。でも、やはり「結果を求めず」ということは大事だなと、「ありのままでも、そのままで大丈夫」ということは大事だなと思います。言葉足らずですみませんでした。今ようやくコロナが少しずつ収まってきてはいるんですが、インフルエンザがまた流行りだしてきているということがニュースでもやっていまして、そうなのかと思いました。インフルエンザは割とコロナ始まってから下火だったんですが、なので今度はまたインフルエンザ対策かと思いながら、教育現場も大変だなと感じています。大変でしょうけれども、やはり体験とか経験とか大事ですので、できることをできるだけ気を付けながらやっていけたらと思っています。

教　育　長:ありがとうございました。それでは、事務局から連絡事項をお願いします。

2）事務局から

臼井次長:お願いします。

・市町村教育委員会研修総会について

10 月 21 日佐久市で集合して実施予定

→　オンライン研修に変更、日時は変更無し

臼井次長:事務局からは以上です。

教　育　長:ありがとうございました。それでは次回の日程に移ります。

次回の定例教育委員会の日程　　11 月 2 日(水)　午前 9：30～

教　育　長:全体を通して何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございました。

六　　閉会（加瀬教育長）

長時間にわたり、ありがとうございました。以上で 10 月の麻績村教育委員会定例会を閉会します。